



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

教育委員長 美島 健二

今年も早いもので既に師走の様相を呈しております。1年を振り返りますと、リオ五輪での体操男子団体金メダルや陸上男子400mリレー銀メダルなど、日本中を元気にする話題がありました。また、ごく最近の出来事としても東京工業大学栄誉教授



の大隅良典博士のノーベル医学・生理学賞の受賞がありました。生命科学分野で我が国が先進的な役割を果たし続けていることが証明され極めて喜ばしい事だと思います。日本のノーベル賞受賞は2014年から3年連続となり、自然科学系3賞での日本人単独受賞となると1949年の湯川秀樹博士、1987年の利根川進博士について3人目の快挙だそうです。大隅博士が発見された“オートファジー”は自食とも呼ばれ、飢餓状態において不足したアミノ酸を補給するために細胞が自らの細胞質を分解する細胞内の「リサイクルシステム」です。大隅博士は酵母において、このオートファジーの主演となる14の主要な遺伝子「ATG (autophagy) 遺伝子」を発見されました。さらに大隅先生のお弟子さんにあたる東京大学大学院医学系研究科の水島 昇博士が哺乳類の系でも同様な現象がみられることを報告し当該分野の臨床への応用に寄与されました。オートファジーは先に述べた飢餓状態におけるアミノ酸の補給に加えてタンパク質の品質管理などにもかかわっている事が明らかとなり、神経変性疾患、癌や自己免疫疾患などへの関与が報告されています。大隅博士は、27年前に酵母のオートファジーを発見して以来、一貫してその分子機構の解明に取り組まれ、その成果が今回ノーベル賞の受賞につながったそうです。

さて少し話が変わりますが、最近、書店で1つの本が目にとまりました。それは、“GRIT やり抜く力”というタイトルの本です。ペンシルバニア大学心理学部教授のAngela Lee Duckworth氏が執筆されたものです。著者は中学校の教員時代にあることに気付いたそうです。それは、飲み込みの良い生徒が必ずしも成績の良い生徒とは限らなかったそうです。すなわち、IQのみが成績を規定するものではなく大切なのは“やり抜く力”だそうです。“やり抜く力”は1つのことに興味

を持ち、明確な目標を持って粘り強く何度も何度も達成するまで繰り返すことができる能力とされ、学業に限らずあらゆる分野での成功を収める要因となるそうです。確かに私自身も学生教育で同様の事を感じることが多くあります。大隅先生がオートファジー一筋でノーベル賞を勝ち得たことにも共通するものだと感じます。

これから進級試験、共用試験および国家試験とまさに試験期間に入りますが、私ども教員も粘り強く“やり抜く力”を引き出すよう学生指導に当たるとともに自分自身の“やり抜く力”も磨いていきたいと思えます。

第二延山小学校の校外授業を行いました

小児成育歯科学講座 浅川 剛吉

11月21日(月)に歯科理工学部門の先生と一緒に品川区立第二延山小学校5年生の校外授業を行いました。小学生はA~Hのグループに分かれて医学教育講座高宮先生の「いのちの授業」を受けた後にワークショップを行うセッションと医学・歯学・薬学・看護学(2つ選択)の体験実習を受けるセッションとを午前と午後それぞれ受けられました。

歯学では、口の機能やむし歯の話をした後に、歯科医体験として、齶蝕除去後の人工歯に平頭充填器を用いてコンジットレジンで充填し、裂溝や咬頭の形態を作製し照射器にて光重合を行いました。また、人工歯にボールペンで仮想のむし歯を作り、ポータブル診療ユニットのタービンを用いて人工歯の切削も行いました。質問コーナーでは「歯科診療に使う器具はどれくらいあるか?」「治療中に気を付けていることは?」「仕事をしていて嬉しいことは?」「仕事で自慢できることは?」などの質問があり、みんな興味津々でした。校外授業後には、将来は医療の道に進みたいと言う子供やとても楽しかったという感想もたくさんあったとのことです。この体験を通して、数年後に昭和大学に入学する子供達がいると嬉しい限りです。



平成28年度昭和大学解剖慰霊祭が 挙行されました

口腔解剖学講座 中島 功

平成28年度解剖慰霊祭が10月18日(火)午後2時より、御遺族・来賓・学内関係者・学生の参列のもと、上條講堂においてしめやかに行われました。本年度慰霊された献体者は病理解剖または解剖学実習のための解剖に供された方々で、この中には歯学部解剖学実習のために献体された方が17柱含まれています。式には約73名の御遺族ならびに同伴者61名の計134名と、医学部・歯学部・薬学部・保健医療学部の学生が参列しました。今年の歯学部の人体解剖学実習は4月から6月まで行われました。医学・歯学を学ぶためには解剖学実習はなくてはならず、そのためにはご遺体の提供は不可欠です。献体者と御遺族に対して大切なご遺体を解剖させていただいた御恩を深く感じて、お礼をするために歯学部2年生が参列いたしました。

開会の辞に続いて、物故者の御冥福をお祈りして、参列者全員で黙祷が捧げられました。昭和大学を代表して横浜市北部病院臨床病理診断科の国村利明准教授が祭文を述べられました。歯学部からは学生代表として池端陽介さんが弔辞を述べました。小出学長より参列者に御礼と感謝の気持ちを述べた御挨拶があり、次いで参列者全員が祭壇の前で献花を捧げて午後3時に解剖慰霊祭は終了しました。



学生生活指導のための教育職員ガイ ダンスが開催されました

学生部長 上條 竜太郎

10月31日、上條講堂で「学生生活指導のための教育職員ガイダンス」が開催されました。本ガイダンスは、日頃学生教育にご尽力いただいている先生方を対象として、学生教育に関する最新の話題や諸問題、参考となる事例等をご講演いただくもので、平成17年より毎年開催され、本年度で第12回となりました。本年度のガイダンスは、「発達障害学生について」と題して開催され、宮崎 章学生部長(医学部・教授)の開会の辞、小出 良平学長の挨拶に続き、加藤進昌先生(昭和大学発達障害医療研究所・所長)よりお話をいただきました。日々の学生教育に直結する興味深いお話で、非常に有意義なガイダンスとなりました。

平成29年度推薦・編入学試験が実施さ れました

入学支援課 水庭 隆史

平成28年11月3日(木・祝)に、平成29年度歯学部・薬学部・保健医療学部推薦入学試験、歯学部編入学試験Ⅰ期が旗の台キャンパスで行われました。

今回、推薦入学試験(募集定員25名)の志願者数は65名(昨年度46名)、編入学試験Ⅰ期の志願者数は8名(昨年度6名)と、昨年度を上回る志願者数となりました。夏から秋にかけてみなさまにご協力いただいた高校訪問によるものと思います。

あわせて、試験当日には基礎学力テストに引き続き、小論文、面接の運營業務にも、多大なるご協力をいただき、諸先生方には深く感謝申し上げます。合格発表は11月7日(月)午後3時に行われ、推薦入学試験では35名(男16名、女19名)、編入学試験では1名(女1名)が合格となりました。

今後の入試日程は以下の通りです。1月26日(木)の選抜Ⅰ期・センター利用入試Ⅰ期は東京(五反田TOCビル)だけでなく、大阪(新大阪丸ビル別館)と福岡(南近代ビル)でも実施します。教職員の皆様には今後ともご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

入試種別 (募集人員)	出願期間	試験日	合格発表
選抜試験Ⅰ期 (50名)	12月21日 ~1月17日	1月26日	1月30日
センター利用 入試Ⅰ期 (約10名)	12月21日 ~1月12日	セ:1月14・15日 面接:1月26日	2月3日
編入学試験 Ⅱ期 (若干名)	12月21日 ~1月12日	セ:1月14・15日 面接:1月26日	2月3日
選抜試験Ⅱ期 (約8名)	2月6日 ~2月17日	2月25日	2月28日
センター利用 入試Ⅱ期 (約3名)	2月6日 ~2月17日	セ:1月14・15日 面接:2月25日	2月28日

受賞

広報委員長 中村 雅典

- 第23回 日本歯科医学会総会
デンタル・スチューデント・プレゼンテーション優秀賞
佐藤 ゆり絵(歯学部5年)
- 第33回 日本障害者歯科学会学術大会
優秀発表賞 嘉手納 未季(障害者歯科学部門)
- 第75回 日本矯正歯科学会学術大会
優秀発表賞 泉田 恵理(歯科矯正学講座)
- 第20回 日本補綴歯科学会東京支部学術大会
優秀発表賞 中里 友香理(歯科補綴学講座)
- 第53回 日本口腔組織培養学会学術大会
ベストプレゼンテーション賞
馬目 瑤子(障害者歯科学部門)
金子 児太郎(口腔生化学講座)

日本歯科医学会総会デンタル・スチューデント・プレゼンテーション優秀賞を受賞しました

歯学部5年 佐藤 ゆり絵

この度、第23回日本歯科医学会総会でデンタル・スチューデント・プレゼンテーション優秀賞をいただきました。発表内容は、骨吸収抑制活性を持つ抗体が妊娠マウスやその胎児に与える影響について解析したものです。この研究を始めるきっかけは、3年生の研究入門で歯科薬理学を選択し、初めて自ら実験を行ったことです。その後も研究室に通い、坂井信裕先生から多くの実験方法や知識を教えてくださいました。マウスに薬剤を投与する時はいつも緊張し、それを何度も繰り返すことの大変さを経験しました。授業後の限られた時間での研究は体力と忍耐力が必要でした。本番では色々な質問を受けましたが、前日まで先生方と何度も発表の練習をしていたので、なんとか答えることができました。また、私の受賞を昭和大学の先生方や家族がとても喜んでくれたことを何より嬉しく思います。最後に、ご指導いただいた歯科薬理学講座の皆様にご場を借りてお礼申し上げます。



日本障害者歯科学会で優秀発表賞を受賞しました

大学院4年(障害者歯科学専攻) 嘉手納 未季

10月1日、2日に大宮にて開催された第33回日本障害者歯科学会学術大会で発表した「メルトニンによる自然免疫系を介した炎症調節機構の解明」で優秀発表賞を受賞いたしました。メルトニンは障害者歯科臨床で多く接する自閉症スペクトラム障害や多発性硬化症への関与が示唆されており、将来的な臨床応用に繋がれたらと考えております。今後も障害者の健康とQOLの向上に貢献できるよう研究や臨床に精進してまいります。障害者歯科学の船津敬弘准教授、口腔微生物学の桑田啓貴教授をはじめご指導いただいた多くの先生方に心より感謝申し上げます。

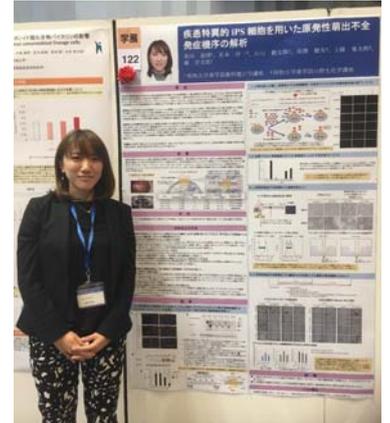


日本矯正歯科学会大会で優秀発表賞を受賞しました

歯科矯正学講座 泉田 恵理

第75回日本矯正歯科学会大会(11月7日~9日、徳島)にて優秀発表賞を受賞しました。大会には日本だけでなく海外からも矯正歯科医師が集い、新しい技術や考え方を学ぶことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。

今回、私は「疾患特異的iPS細胞を用いた原発性萌出不全発症機序の解析」という演題で発表を行いました。この研究では何度も難題に直面しましたが、今回幸運にも優秀発表賞を受賞することができ大変嬉しく思っております。今回の受賞に際して、これまでご指導下さった歯科矯正学講座の槇宏太郎教授、口腔生化学講座の上條竜太郎教授はじめ多くの先生方にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。



日本補綴歯科学会東京支部総会で優秀発表賞を受賞しました

大学院4年(歯科補綴学専攻) 中里 友香理

9月24日に日本歯科大学九段ホールで行われた日本補綴歯科学会東京支部総会にて口演発表を行わせて頂き、優秀発表賞を受賞致しました。初めての学会発表でとても緊張致しましたが、馬場教授をはじめ研究チームの先生方の多大なるご指導によってこのような賞を頂くことができ、大変光栄です。今回の経験を糧に今後もより一層知識を深めていこうと思います。



認定医・専門医取得

広報委員長 中村 雅典

- ・日本障害者歯科学会 認定医
嘉手納 未季 (障害者歯科学部門)
- ・日本障害者歯科学会 指導医
石川 健太郎 (口腔衛生学部門)
- ・日本歯周病学会 認定医
小田中 響 (歯周病学講座)
齊藤 彰大 (歯周病学講座)
石塚 元規 (歯周病学講座)
- ・日本歯周病学会 指導医
滝口 尚 (歯周病学講座)

永年勤続者表彰式が開催されました

歯学部長 宮崎 隆

去る11月8日(火)午後5時から上條講堂において、学校法人昭和大学の平成28年度永年勤続者表彰式が執り行われました。

今年度の表彰対象者は昨年度よりも大幅に増えて、勤続35年33名、25年65名、15年153名の合計251名でした。小口勝司理事長から、長年大学の発展に貢献していただいた永年勤続者に感謝とねぎらいの挨拶があり、各勤続年代表者(35年代表:久光医学部長, 25年代表:歯学部上條教授, 15年代表:歯学部中村教授)に、表彰状と記念品が授与されました。昭和大学宣言に引き続き、校歌を斉唱し、壇上で記念撮影を行いました。

会場を移して、タワーレストラン昭和で懇親会が開催され、思い出話に花を咲かせました。懇親会では25年を代表して、代田教授からキャリアを育ててくれた大学への感謝の挨拶がありました。

歯学部・歯科病院関係の表彰者は以下の通りです。(敬称略)今後も益々お元気で活躍されますようお祈り申し上げます。

35年:船登雅彦(顎関節症治療科), 川久保良美(歯科病院中央技工室), 上村秀昭(歯科病院中央技工室)

25年:上條竜太郎(口腔生化学), 代田達夫(顎顔面口腔外科)

15年:中村雅典(口腔解剖学), 河野葉子(口腔病理学), 須澤徹夫(口腔生化学), 宇山理紗(口腔生化学), 増田陸雄(歯科麻酔科), 横山 薫(口腔リハビリテーション科), 鈴木文恵(口腔病理学), 枝元桂子(歯科病院病棟), 木本 未(歯科病院歯科衛生室)



EAO 認定医試験に合格しました

歯科補綴学講座 横山 紗和子

9月29日～10月1日にフランス・パリで行われた第25回EAO(European Association for Osseointegration) Annual Congressにて、EAO Certification Programの認定医試験に合格することができました。試験は、書類審査・筆記試験・面接試験の3部構成になっており、



筆記試験と面接試験が学会の会期中に行われました。筆記試験はインプラント治療に関して広く知識を

問う問題が出題され、面接試験では事前に提出している症例についてのディスカッションを行いました。最終日のAward Ceremonyにて合格を発表していただき、感動致しました。

インフルエンザワクチン接種について

総合内科学部門 井上 紳

2016/17年シーズンのインフルエンザはすでに流行しています。昨年度は年が明けてから本格的な流行が始まり遅いシーズン明けでしたが、今年度の全国調査では沖縄県那覇市で、第40週(10月3日～9日)に定点あたり11人と報告されています。東京都では第40週にAH3亜型2件、AH3亜型が42週に2件、43週に3件検出されました。例年12月から3月にかけて流行するインフルエンザですが、そろそろ感染に注意する必要があります。国立感染症研究所のデータによる型別発生状況では11月2日までに5都県からAH1型、20都県からAH3型、3県からB型が報告されました。沖縄の発生状況から、今年は10才代で特に流行するのではないかと予想されています。また、沖縄で検出されているのはAH3型(A香港型)ですが、これは2014/15シーズンに子供たちの間で大流行した型です。昭和大学歯科病院では11月11日、22日に職員へのインフルエンザワクチン接種を行います。以前のワクチンは3株を含むものですが、現在は4株になっています。2016～2017年シーズンはA型2株(カリフォルニア:H1N1, 香港:H3N2), B型2株(プーケット・山形系統, テキサス・ビクトリア系統)となっています。皆さん予防接種を受け、早めの対策をお願いいたします。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

11月26日(土):昭和学士会総会

12月 8日(木):大学院 I 期入試

編集後記

口腔微生物学講座 深町 はるか

秋の学会シーズンを迎え、今年も沢山の大学院生から受賞のニュースが届いています。日頃から真摯に研究に取り組み続けた努力の賜物だと思います。研究マインドを兼ね備えた医療人として益々のご活躍を期待しております。